

高校生レベルの学生のアウトプットを促進する方法 ~Story retelling の観点から~

◆構造マップとアウトプットのためのテストの併用

今回は構造マップとアウトプットのためのテストの併用という視点から story retelling を促進する方法を考案する。読解指導では構造マップを使うことにより核となるメッセージを伝えるために筆者がどのような文展開を使っているか、また文全体に何が書かれているかを把握させることができる。「アウトプットを増やすという観点では、スピーキングやライティングにおいても、構造マップの使用は大変有効です。」(伊東, 2008)から構造マップはリーディングだけでなくスピーキングにも適用できると考えられる。また構造マップの知識をアウトプット化させるために今回は story retelling のためのテストも採用する。

◆DSGO 指導と SRST について

今回は Xiangying Jiang (2012)で紹介されたグラフィックオーガナイザー(Discourse Structure Graphic Organizers = DSGOs)と平井(2011)の「読んだ内容を話す方式のスピーキングテスト」(Story Retelling Speaking Test: SRST) を利用する。

Xiangying Jiang (2012)概要

EFL 学習者の大学英語レベルのリーディングにおけるグラフィックオーガナイザー(Discourse Structure Graphic Organizers = DSGOs)の効果について検証した。

DSGOs : 会話構造の指導のために有用とされる方法であるグラフィックオーガナイザー(GOs)の中で直接的にテキストの会話構造を示すタイプに属する。

⇒会話構造やテキストの情報を視覚的、階層的に示す指導方法。(図 1)

事前に DSGO テストと TOEFL リーディングテストが行われ、DSGO を用いた指導の直後、7 週間後にも同様に行われた。

結果、DSGO を用いた指導は会話理解を促進した。また指導の直後に行われた TOEFL リーディングテストにおいては能力の向上が見られた。しかし 7 週間後に行われたテストまではその効果の持続は見られなかった。

また今回の結果から DSGO 指導は幅広い学習レベルに適用できることが予想された。

SRST について(平井 2011)より

- ①まず、提示されたストーリーを黙読し、内容把握問題に各自口頭で答える。
- ②次に、試験用紙を裏返し、ストーリーについて、キーワードを見ながら 2 分半話す。
発話の最後には、ストーリーに関する感想や意見などを付け加えるという手順を取る。

利点(平井 2011)より：

- ①話す言語材料（ストーリー）を与えることによって、発話する言語知識を十分に持っていない学習者にとっても、学習効果があり、かつ発話を促すことができる。
- ②ストーリーに使用するテキストの難易度を変えることによって、SRST のレベルを変えることができる。
- ③ストーリーに使用するテキストは、文法項目や重要語句などのターゲットになる学習項目を含めることができ、学習の定着が図れる。

◆指導方法について

今回はこれらの二つの指導法を共に採用する。

目的：学習者がテキスト構造について理解し、更にその知識をアウトプット(story retelling)に応用する力を見につけること。

手順 1：長期的に DSGO 指導を行う。

この段階では生徒に文章構造について学習させる。

- ・ Xiangying Jiang (2012)によると長期的な DSGO 指導は文章理解能力の向上に有用である。
- ・ Xiangying Jiang (2012)では 16 週間という長期間の指導にもかかわらず指導の 7 週間後にはその効果は無くなってしまった。このことから実施期間は 16 週間以上は必要だと考えられる。
- ・ 教材は一般に高校で用いられている教科書を利用する。
- ・ 構造マップを使いながらテキストの構造やテキストの中の重要な点を説明する。
⇒最終的には生徒が自分でこれらができるようにする。

手順2：SRSTを行う

文章構造についての指導をした後にその知識をスピーキングで発揮させる。

- ・基本的には平井(2011)のSRSTを採用する。生徒の学習レベルによっては黙読の時間を多めに取り頭の中で文章の構造を整理させる、SRSTの難易度を下げる等のSRSTの調整を行う。また、ヒントとしてキーワードだけでなく構造マップの枠組みだけを見せるなどの工夫も行う。
- ・テストには教科書にある英文ではなく、生徒が今まで読んだことのないものを用いる。
⇒教科書の暗記という作業をなくし、その場で生徒に文章構造を考えさせる。

◆考察

今回はDSGO指導とSRSTを併用した指導法を考案した。文章構造の理解はリーディングだけでなくstory retellingにおいても有用であると考えたためDSGO指導を採用した。話を再構築する際には段落の関係や話の展開を理解していることが重要になってくるだろう。また、ただ指導して終わらせるのではなく指導により習得した文章構造についての知識を実際に使わせることも大切であると考えたため、今回はSRSTも採用した。

この手順により生徒から「話の重要な部分、話の流れを理解した質の高いアウトプット」が見られるようになるのではないだろうか。

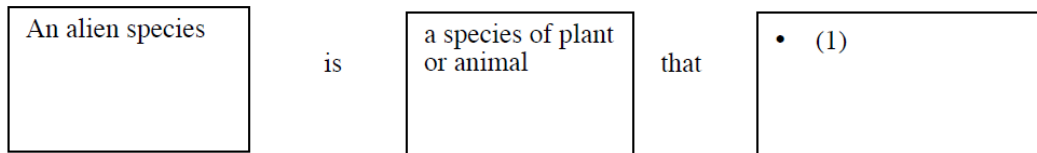
図 1

Appendix C

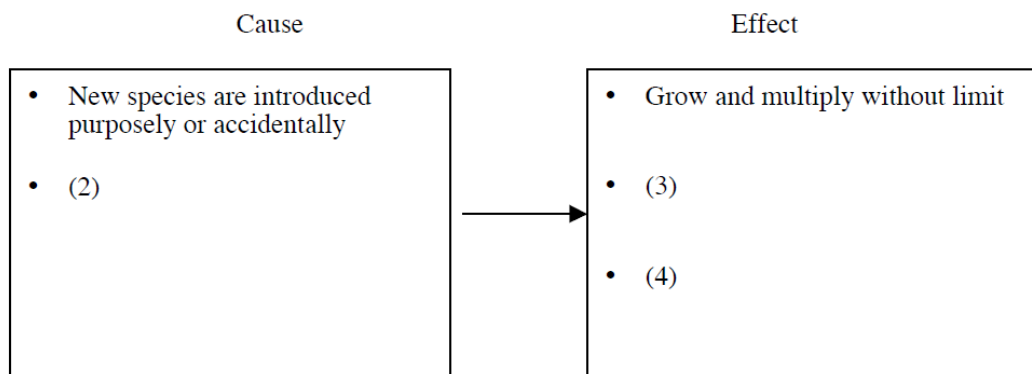
GO Completion Worksheet: An Example

Directions: Fill in the numbered blanks in the graphic organizers based on the text you read.

1. What is an alien species? (Paragraph 1)



2. The introduction of alien species and its consequences (Paragraph 1)



参考文献

平井明代, (2011), 「学習へのプラスの波及効果を生む実用的スピーキングテストの研究・開発」, URL <http://hdl.handle.net/2241/115041>

Xiangying Jiang , (2012), *Effects of discourse structure graphic organizers on EFL reading comprehension*, Reading in a Foreign Language April 2012, Volume 24, No. 1 ISSN 1539-0578 pp. 84–105

伊東治己, (2008), 「アウトプット重視の英語授業」, 教育出版